

Relationship between reading attitudes, achievement, and learners' perceptions of their jigsaw cooperative learning experience.

Ghaith, G, M. and Bouzeineddine, A, R
Reading Psychology, 24, 105-121

概要

- ・ 中学校における英語授業の実践
ジグソー法に基づいて協同で学習
- ・ 学習者のリーディングに対する感情的な側面、リーディングの成績について検討
ジェンダーによる違い
学力による違い

1. はじめに

1.1 リーディングに対する学習者の自己概念と態度

- ・ リーディング理論において学習者の自己概念(自分に対する知識やイメージ)と態度の重要性を強調

動機と努力がリーディングに影響

： 題材に対して関心のある学習者は、ない学習者よりリーディングが持続する

： ポジティブな自己概念を持っている人はリーディングを楽しみ、読んでいる箇所を認識でき、かつ動機付けも高い

： ネガティブな動機や自己概念の学習者はリーディングを嫌い、読解力もない

- ・ リーディングにおける感情的な側面と環境の関係を検討

1.2 協調学習

- ・ 協調学習は学校教育における認知的、社会的、感情的側面を改革する展望あるものとして確立された(Slavin, 1995)

- ・ 方法と構造による協調学習のカテゴリー化(Kluge, MxGuire, Johnson, and Johnshon, 1999)

(a)The Structural Approach, (b)Group Investigation, (c)Student Team Investigation, (d)Curriculum Packages, (e)Learning Together

- ・ Kluge, MxGuire, Johnson, & Johnshon(1999)によるカテゴリーにおける共通点と相違点

共通点

： ポジティブな依存関係

： 個人の責任

： Face to Face の相互作用

： ストレスを減らす環境

相違点

： 個別学習とグループ学習の度合い

：協調させるか競合(競争)させるかの違い

- ・協調学習は個別学習、競合学習と比較して有効(e.g., Johnson, Johnson, & Maruyama, 1984)
グループ全体の成功を通して、各自の目的を達成することがモチベーションを高める(e.g., Johnson, & Johnson, 1989)
学習者が協同で取り組んだとき、主体的に活動する姿勢が見られた(e.g., Deutsch, 1949)
協調学習を行った学習者は、メンバーに対してより学習してほしいと感じるようになる(e.g., Hulten & De Vries, 1976)
協調学習を行った学習者の社会的地位(教室の人間関係?)が改善された(Slavin, 1977)

1.3 協調学習におけるジェンダーの問題

- ・協調学習におけるジェンダーによる違いが確認された
男子学生は女子学生よりリーダー的であった(Lockheed, Abigail, Haris, & Newman, 1991)
女子学生が多いグループにおいては、相互作用の中心は女子学生であるが、成績は男子学生より悪い(Webb, 1984)
男子学生が多いグループにおいては、男子学生が女子学生を無視する傾向があり、成績も男子学生の方がよい(Webb, 1984)

1.4 協調学習における学力の違い

- ・高学力者には協調学習は効果的でない(e.g., Robinson, 1990)
- ・一方で、高学力の学習者に効果がある場合(Dansereau, 1998)
高学力者が低学力者に説明をするため、それにより深まる
- ・低学力の学習者に効果がある場合(Ghaith, 2001)
低学力者は高学力者と一緒だと気楽に取り組むことができる
協同の効果について学力の観点からははっきりしない(Slavin, 1995)

1.5 ジグソー 方略

- ・ジグソー方略とは
Student Team Investigation(c)に属する
Aronson et al. (1978)によって開発された方略
後に Slavin(1986)にジグソー 方略として採用
- ・ジグソー 方略とは
方略はリーディングの学習に適した方法(Slavin, 1995)
ジグソー 方略における学習サイクル
リーディング エキスパートグループにおけるディスカッション チームで報告(ジグソーグループ) テスト チームで再確認
：第2言語の獲得においてコミュニケーションを含んだ訓練とストレスを減らす環境を与える(Vygotsky, 1978)

1.6 研究目的

- (1)ジグソー による協調学習の経験が学習者の態度・リーディングの成績に影響するか?
- (2)(1)と関連して男女の違いによる影響

(3)(1)と関連して学力の違いによる影響

2. 方法

2.1 参加学習者

- ・レバノンの8年生 111名
男子学生 57名 女子学生 52名 性別未記入 2名
高学力者 54名 低学力者 57名
：プレテストにおいて 52.5 を基準に分類

2.2 評価課題

- ・プレテスト・ポストテスト
測定内容
：読んだ内容を理解できたかどうか
：推論や結論付けをする能力
形式
：多肢選択、真偽を問う課題、単純な問答形式の課題
所要時間 30分
Sax(1980)に基づいた方法による信頼性の保証
(1)ステップ1：参加教師による学習内容とテスト内容の関連の確認
(2)ステップ2：教師、英語のコーディネーター(AET?)、研究者による確認
(3)ステップ3：一致しない部分は修正及び除外
- ・態度・自己概念の測定
(1)リーディングに対する態度(Appendix A)
10の質問項目に対して3段階で評価
：質問例
1. 割り当てられてない内容も読みましたか?
4. リーディングをしていてよい経験をしましたか?
7. 教師にリーディング内容を割り当てられたときうれしく思いましたか?
一致率(係数)0.63
- (2)自己や学校に対する態度(Appendix B)
7つの質問項目に対して6段階で評価
：質問例
1. 今年は、学校がどのくらい好きですか?
2. 教室では、どの程度、幸せに感じますか?
7. 教室では、どの程度、あなたが学ぼうとしていることが学べていると感じますか?
一致率(係数)0.70
- (3)グループ活動に対する評価(Appendix C)
6つの項目に対して5段階で評価(ジグソー 方略によるグループ活動に対して体験してみてもうだったかを評価)

: 質問例

1. 役に立つかどうか
4. 興味があるかどうか
6. 明確かどうか

一致率(係数)0.81

2.3 教師の事前トレーニング

- ・担当教師は授業実施の前にジグソー 学習に関するトレーニングを受けた
- ・期間: 4 日間、1 日 2 セッション(1 セッション 2 時間)
- ・参加教師: 25 名(教師歴は平均 5.6 年)
- ・事前トレーニングの流れ

(1)ジグソーにおけるグループ構成の仕方について学習

標準的な協調学習の手続き、インタビュー、Round-Robin(いくつかの処理を決まった順番で繰り返して行う方法)を実際に行う

(2)ジグソー の要素(2.4 の内容)についてビデオで学習

(3)実際にジグソー が行われている場面を見学

(4)ジグソー を取り入れた授業を考案

ただし、(3)(4)はジグソー 学習に賛成した 2 名の教師のみ参加

2.4 授業の流れ

- ・12 週間にわたるセッション
- ・EFL(English as a Foreign Language)プログラムに基づく

(1)グループ構成

計 27 のグループを構成(このグループが後のジグソーグループとなる)

: 24 グループ 4 人で構成、3 グループ 5 人で構成

各自、グループに分かれる(エキスパートグループ)

: この際、学力・性別を考慮

(2)リーディング

各自題材を受け取り、ワークシートを完成させる

(3)エキスパートグループにおけるディスカッション

ディスカッションを通してワークシートを完成させる

: このワークシートはおそらくグループで 1 つ

(4)チームレポート(ジグソーグループにおける学習)

もとのグループに戻り、エキスパートグループで学習した内容を教えあう

(5)テスト

課題に関連したクイズに個別的に答える

(6)チームにおける再確認

前述のテストに基づいてチームメンバーが理解したかどうか確認する

2.5 データ分析

- ・ネガティブな質問項目は高得点がポジティブな態度を示すようにした
- ・Two multivariate analysis of covariance による分析
 独立変数：性別、学力
 従属変数：リーディングに対する態度、学校に対する態度、リーディングの成績、グループ活動に対する評価

3 . 結果

3.1 Multivariate analysis of covariance による分析

(1)ジェンダーによる比較

- ・結果のまとめ

	結果
全体	有意差があった(どちらが有意かは不明)
リーディングへの態度(RA)	男子学生 < 女子学生
学校への態度(SSA)	男子学生 > 女子学生
リーディングの成績(Achievement)	男子学生 < 女子学生
グループ活動に対する評価(CL Experience)	男子学生 > 女子学生

- ・Multivariate analysis of covariance の結果

TABLE 3. Multivariate Analysis of Covariance Summary of Scores by Male and Female Learners

Multivariate ANCOVA ^a		Univariate ANCOVA ^b			
Source	F	RA	SSA	ACH	CL Exp.
Gender	5.87**	F 6.99**	6.52**	5.21**	16.99**

^adf's = (5, 77); ^bdf's = (2, 81); * p < .05; ** p < .01; RA: Reading Attitude; SSA: Self and School Attitude; ACH: Achievement; CL Exp.: Cooperative Learning Experience

(2)学力による比較

- ・結果のまとめ

	結果
全体	有意差があった(どちらが有意かは不明)
リーディングへの態度(RA)	低学力者 < 高学力者
学校への態度(SSA)	低学力者 < 高学力者
リーディングの成績(Achievement)	低学力者 < 高学力者
グループ活動に対する評価(CL Experience)	低学力者 > 高学力者

・ Multivariate analysis of covariance の結果

TABLE 4. Multivariate Analysis of Covariance Summary of Scores by Achievement Level

Multivariate ANCOVA ^a		Univariate ANCOVA ^b			
Source	F	RA	SSA	ACH	CL Exp.
Achievement	18.04**	F 13.82**	9.81**	77.05**	17.24*

^adf's = (5, 78); ^bdf's = (2, 82); * p < .05; ** p < .01; RA: Reading Attitude; SSA: Self and School Attitude; ACH: Achievement; CL Exp.: Cooperative Learning Experience

3.2 相関分析

・ 相関関係が見られたもの

リーディングに対する態度(Reading attitude)と学校への態度(Self and school attitude)(r = 0.47)

リーディングに対する態度とリーディングの成績(Achievement)(r=0.44)

学校への態度とリーディングの成績(r=0.44)

TABLE 2. Intercorrelations Among the Variables

Variable	Reading Attitude	Self and School School Attitude	CL Experience	Achievement
1		.47*	.02	.44*
2			.12	.44*
3				.09

** p < .05

4 . 考察

4.1 ジェンダーの観点からの考察

- ・リーディングの態度、学校への態度、リーディングの成績の間に相関があった

リーディングに対してポジティブな態度を示す学習者は、学習者としての自己概念もポジティブであり、学校生活を楽しみ、そして、読解力もある

:リーディングにおける感情と読解の関連については先行研究(Burns, 1999, Downing, 1982)でも指摘されている

- ・ジグソー 学習に対する評価とリーディングの態度、学校への態度、読解力との間に相関がなかった

ジグソー 学習に対する評価はジェンダーや学力が影響する

- ・男子学生はジグソー 学習に対してポジティブな評価をするが、成績は女子学生のほうがよい
男女混合グループにおいてはインタラクションの仕方が異なる(Lockheed et al., 1983)

:男女混合グループにおける男子学生は女子学生のことを有能だと思わず、リーダー的でもないと思える

:男女混合グループにおいては、男子学生が女子学生を無視する傾向がある

ゆえに、女子学生はリーディングが好きで成績もよいが、グループ活動にはネガティブな

評価をする(Webb, 1984)

この研究では男女混合で学力の異なる学習者同士でグループを構成した
：男子学生が好み、女子学生より優位な状況となった

4.2 学力の違いの観点からの考察

- ・低学力者は協調学習に対してポジティブな評価をしたが、リーディングや学校に対する態度はネガティブであった

低学力者にとって、協調学習は高学力者からの助けがあり、動機付けられる環境なので、気楽な状況であった(Ghaith, 2001)

この研究結果から、外国語の協調学習においては、低学力者が教師や高学力者から支援を受けることが可能な状況を設定すれば態度や成績の改善につながることを期待

4.3 まとめ

- ・この研究では外国語学習(英語)のリーディングにおける感情的な側面を強調
個人差(ジェンダー、学力)が学校生活における教育的に重要な側面に対して影響する

- ・今後の課題

協調学習におけるグループ構成の仕方

：言語や文化的背景の異なるもの同士のグループ

学習者の特徴や学校経験の関係について教育的な技術や手続きよりも、むしろ文化的・教育的な文脈の中から検討

全体の結果

TABLE 1. Descriptive Statistics for Variables by Gender and Achievement Level

Variable	Gender				Achievement Level			
	平均 Male (n = 43) M	標準偏差 Female (n = 43) SD			Low (n = 42) M	High (n = 45) SD		
リーディングに対する態度 RA	21.00	3.03	21.25	3.14	20.00	2.69	22.22	3.01
学校に対する態度 SSA	28.48	4.58	27.79	4.86	26.38	4.60	29.88	3.01
成績 Achievement	48.92	10.61	56.30	11.82	42.70	6.01	61.86	7.26
協調学習に対する評価 CL Experience	31.27	4.91	29.25	4.66	31.07	5.73	29.57	3.77

Appendix A

Attitude Survey Related to Reading

Grade Level _____ Name _____

Students,

Thank you for participating in this survey. The survey is being conducted to determine feelings towards reading:

Please circle the appropriate response for each item.

1. Do you ever read unassigned material?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

2. Do you willingly read?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

3. Do you enjoy reading?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

4. Do you have positive experiences when reading?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

5. Is reading fun?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

6. Do you feel successful when reading?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

7. When the teacher assigns reading material, are your thoughts pleasant?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

8. Is there a need to read?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

9. Would you like to read extra material?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

10. Would you like selecting your own reading material?

Never Sometimes Most of the time
1 2 3

